川をよくするっていうのは
どういうことかというと、当然、木を植えたり、森を回復しなきゃならないだろうし、地下水のことや、昆虫のことを考えなきゃならないで、今度、川の中の生物が生き返る。それが生き返ることは、海の生物が生き返る。だから、漁師は何を考えるかっていうと、やっぱり山のてっぺんまで思いを馳せないとね。
自分の生まれた場所、
自分の生まれた故郷、自分が産湯を使った故郷、そこに魂が宿り育っていくんだなあ、まあ、人っていうのは、そういうふうに自分の生まれた所の故郷と、赤ん坊の時から死ぬまで、
自分の生まれた場所、
親たち、お祖父さんがいて、お母さんがいて、そういうような先祖のことを考えると、故郷に自分もこの世から離れてしまうと、やっぱり人生と思います。
あらかわ
長篇記録映画■製作＝山上徹二郎■撮影＝三之瀬正史■音楽＝加古隆■録音＝久保田幸雄■編集＝市原啓子
萩原吉弘第一回監督作品■16ミリ・カラー・ビスタサイズ■1時間20分■1993年シグロ作品
地盤が崩壊っていうのは根が組んでるから崩壊地ができない。
地盤に大雨が降ったら、みんな崩壊して、
ものが流出して、水久に木が生えなくなる。だから
山を守っていかない限り、
山は荒れちゃうから。そうすると、
町の水源というのは、
駄目になっちゃうんだ。
ひとすじの小さな流れから
廃墟を見つめていると、
非常に単純な疑問がわいてきました。
それは、本当に
ダムが必要なのか、
ということです。
ダムを造るためには巨額の費用がかかり、
また、周辺の環境にも大きな影響を与えます。
そして、何よりも私たちが感じたのは
山村に生きる人々の生活が
根底から覆されてしまうということです。

長篇記録映画

あらかわ

一九九三年シグロ作品

優秀映画観賞会推薦
日本映画ペンクラブ推薦
文部省選定

●解説

1992年、11月。荒川上流にある滝沢ダムの地元合意が成立した。23年の歳月を経て、最後の反対同盟会が妥結したのだ。キャメラは、ダムを誘致した山村を起点として、源流から東京湾までの水系169キロに及ぶ荒川の水路を辿りながら、現在的な川の様相と水問題を、克明にルポルタージュしていく。そこには、自然と生きた山間の人々や、農民、漁民の生活が破壊されていく現実とともに、なおも膨れ上がろうとする下流の都市がある。

今、世界は、近代化がもたらした功罪に気付き、バランスを失った社会の軌道修正が行われようとしている。その中で、私たち自身が、川をはじめとした自然にどう向き合っていくべきなのか、その答えを求めて、キャメラは、山や海に生きる男たちの肉声をフィルムに焼きつけていく。

●すいせんの言葉　東　陽一（映画監督）

人間は自然に手を加えなければ生きられない存在だが、この映画はそれを批判するわけではなく、その節度を暗示する。ダム建設をめぐる現実の利害の外で、荒川源流近くに生きる人物と河口の海に生きる人物とが、偶然のように同じ一点、〈山〉について語る言葉が、その意味で感動的だ。美しい水の映像と加古隆の音楽がその主題を鮮明にしている。

●監督メッセージ

川と共に生きていく、と言うことをもう一度自らに問い返してみると、実に多くの事が見えてきました。川が流れ下っていく流路には山があり農地があり海があります。そして、川が管理、施設化される以前の世界では、水の防人として、杣人と農民、漁師がいました。しかし、私たちが辿った川の流域では、その防人たちが近代化とともに途絶えようとしています。

水の防人を失っていく現在、川と共に生きていかなければならない私たちが、未来へ何を継承させていくのか、その問いの意味は意外に深いと言えます。かつて、アメリカインディアンのホピ族は、『今ここに存在している大地は未来からの借物である。だから我々はそれを大事に扱い未来へ返していかなければならない。』と言いました。

では、現代の私たちは、何を未来へ繋ごうとしているのでしょうか。

●すいせんの言葉　木原啓吉（千葉大学教授）

荒川源流部の山村の農民、中流部の都市住民、河口にひろがる東京湾の漁師たち。上流から下流まで、ひとつの川をとりあげて、水と住民の暮らしの関係を、これほどまでに包括的かつリアルに記録した映画があるだろうか。1993年の夏、第9回水郷水都全国会議に参加して、この映画を見た。水環境の保全について語る住民の的確な表現と淡々とした口調に私は深い感動を覚えた。

●映画づくりの原点　矢間 秀次郎

この映画は、荒川・多摩川・利根川の分水嶺を越えて総合的研究をしていたＡＴＴ流域研究所が1992年に企画製作を呼びかけることから始まった。「環境運動50年の奔流」の水音がひびく。2021年製作公開の映画『悠久よりの愛～脱ダム新時代』の原点である。

★新春上映会にご参集を、ふるさとの水土を守るために！

2月20日（木） 開場13:40～　開演14:00～　終了後、プロデューサー・協賛団体等のアフタートーク

■会　場：小金井宮地楽器ホール1階小ホール（ＪＲ中央線「武蔵小金井駅」南口前）
■入場料：当日@1500円、事前予約@1000円（先着定員80人）
■主　催：水の映像フォーラム（☎042 - 381 - 7770）■後　援：小金井市教育委員会■協　賛：小金井の水連絡会
■申込先：右の申込フォーム、またはメール h-yazama@oregano.ocn.ne.jp　氏名・住所・電話番号を明記。

申込フォーム